

綾町埋蔵文化財調査報告書第5集

綾町内遺跡Ⅲ

2003. 3

宮崎県綾町教育委員会

綾町埋蔵文化財調査報告書第5集

綾町内遺跡Ⅲ

2003. 3

宮崎県綾町教育委員会



尾立遺跡上空から綾町域を望む【(有) スカイサーベイ九州 森氏撮影】

序 文

綾町は宮崎県のほぼ中央部に位置しており、照葉樹林が生い茂り、滾々と湧き水が湧き出る自然の豊かな町であります。古代からの歴史を語る文化財は、町民の財産でもあり、この文化財を保護しながら整備を図り、歴史の謎を解く資料とし後世に残すことは、現代に生きる我々に課せられた責務であります。

近年、本町においても各種の開発事業を実施するのに伴い、開発と保護の調整をいかに図るかが重要な課題となっております。綾町教育委員会では、これらに対応するため平成7・8年度に実施した町内遺跡詳細分布調査の結果をもとに、開発に伴う遺跡の確認を目的とした町内遺跡発掘調査事業を実施しております。

本書は平成14年度に実施した調査の報告であります。本書が文化財保護への理解に役立つとともに、生涯学習・学校教育等の場で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた諸関係機関や地権者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

綾町教育委員会
教育長 森山 喜代香

例 言

1. 本書は、綾町教育委員会が文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。

2. 調査は下記の体制でおこなった。

調査主体 綾町教育委員会

教 育 長 森 山 喜代香

社会教育課長 玉 田 清 人

社会教育係長 蓮 子 浩 一

庶務担当 社会教育係 井 上 隆 広

調査担当 社会教育係 井 上 隆 広

調査作業員 (社)綾町シルバー人材センター

整理作業員 淵 本 菜穂美

3. 現地調査は、井上が行なった。

4. 本書の編集執筆は井上が行なった。

5. 本書で使用した方位は、全て磁北である。

6. 調査の記録類、出土遺物などは全て綾町教育委員会で保管している。

目次

本文目次

I 指定文化財一覧	9
II はじめに	
1. 綾町の環境	13
a 地形的環境	13
b 歴史的環境	13
2. 調査の目的	15
a 今年の開発事業について	15
III 試掘調査	
1. 永田地区宅地造成工事に伴う試掘調査（東中坪地区）	19
2. 小田爪・錦原線道路新設工事に伴う試掘調査（杣道地区）	21
3. 多目的交流施設建設工事に伴う試掘調査（南麓地区）	23

挿図目次

第1図 綾町内埋蔵文化財包蔵地・文化財位置図	5
第2図 東中坪地区調査地位置図	19
第3図 杣道地区調査地位置図	21
第4図 南麓地区調査地位置図	23

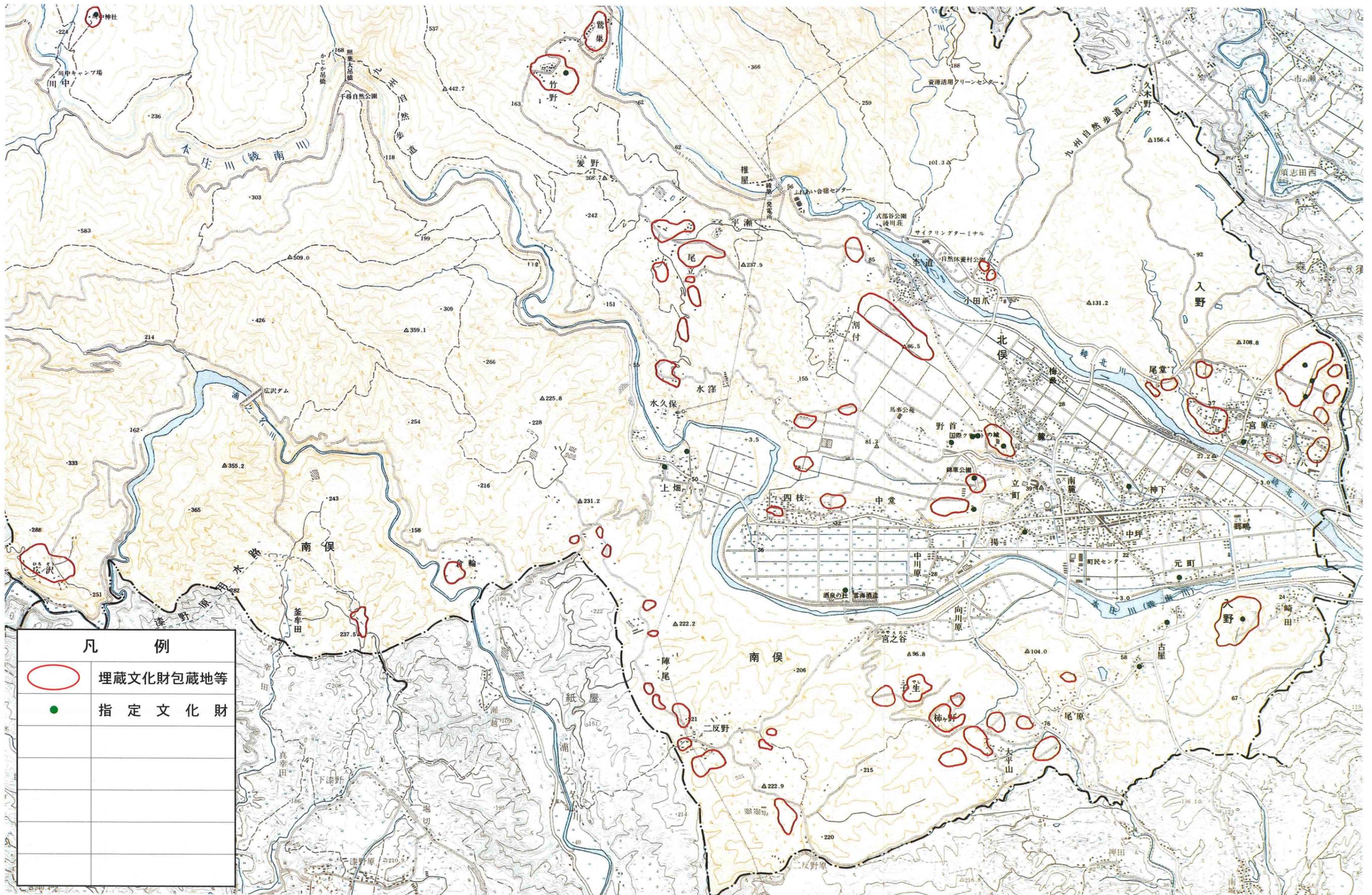
図版目次

図版1 小田爪地区貝の化石層	13
図版2 尾立遺跡遠景	14
図版3 綾古墳（首塚）	14
図版4 垂柳駅跡	14
図版5 垂水城跡遠景	14
図版6 東中坪地区調査地遠景	20
図版7 東中坪地区調査対象地	20
図版8 第5トレンチ下部礫層	20
図版9 第10トレンチ全景	20
図版10 第10トレンチ南壁	20
図版11 第12トレンチ全景	20

図版12	杣道地区調査地遠景	22
図版13	杣道地区調査対象地	22
図版14	第6トレンチ内検出ピット	22
図版15	第21トレンチ全景	22
図版16	第21トレンチ遺物出土状況	22
図版17	杣道地区調査地出土遺物	22
図版18	南麓地区調査対象地（その1）	24
図版19	南麓地区調査対象地（その2）	24
図版20	調査作業風景	24
図版21	第5トレンチ全景	24
図版22	第17トレンチ全景	24
図版23	第17トレンチ西壁土層断面	24

表目次

表1	町内指定文化財一覧表	9
表2	平成14年度試掘調査一覧表	15
表3	報告書登録抄	25



第1図 綾町内埋蔵文化財包蔵地・文化財位置図

I 指定文化財一覽

表1 指定文化財一覧

地図番号	文化財の名称	指定	種別	指定年月日
1	川中神社堂宇	町	有形	昭和51年10月1日
2	入野神社社殿	町	有形	昭和51年10月1日
3	黒葛原武家門	町	有形	昭和51年10月1日
4	綾城跡	町	史跡	昭和51年10月1日
5	垂水城跡	町	史跡	昭和51年10月1日
6	内屋敷城跡	町	史跡	昭和51年10月1日
7	肥田木城跡	町	史跡	昭和51年10月1日
8	垂柳駅跡	町	史跡	昭和51年10月1日
9	田村一三宅跡	町	史跡	昭和51年10月1日
10	竹野のホルトノキ	国	天然記念物	昭和52年2月17日
11	綾のイチイガシ	町	天然記念物	昭和60年1月4日
12	綾神社クスノキ	町	天然記念物	昭和55年10月1日
13	明見神社イチイガシ	町	天然記念物	昭和55年10月1日
14	刀工田中國廣宅跡	県	史跡	平成8年12月5日
15	綾町古墳(王の塚)	県	史跡	平成8年12月5日
16	綾町古墳(スミ床)	県	史跡	平成8年12月5日
17	綾町古墳(四反田)	県	史跡	平成8年12月5日
18	綾町古墳(首塚)	県	史跡	平成8年12月5日
19	旧清水家住宅	町	有形	平成4年5月19日
20	垂水弁阿闍梨の墓	町	有形	平成8年10月29日
21	野首の古井戸	町	史跡	昭和61年8月5日

Ⅱ はじめに

1 綾町の環境

- a 自然環境
- b 歴史的環境

2 調査の目的

- a 綾町の今年度の開発について

1. 綾町の環境

a. 地形的環境

綾町の地形は大きく見ると、東と北隣は国富町の段丘地形及び山岳稜線で境されている。南は高岡町と接し、標高200mの丘陵地形が広がる。西は須木村と山岳の稜線で接している。町の80%は山林が占め、綾北川・南川に囲まれた地域には段丘地形と扇状地が広がっている。

一方地質を見ると、山岳地形を構成するのは古第三紀の日向層群（四万十累層群）である。この地層は砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層からなり、NE-SW方向の走向を示している。段丘地形を構成するものは新第三紀中新世の宮崎層群である。この地層は基底礫岩から始まり、砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層から成る。宮崎層群の地層は、日向層群に比べて固結度が弱いいため侵食されやすく、そのため平坦な段丘地形がよく発達している。宮崎層群は日向層群を傾斜不整合に覆い、砂岩層には貝の化石を多く含んでおり、

町内の至るところで貝の化石が発見されている。二反野の丘陵には、高位段丘礫層が堆積している。錦原付近の段丘は、中位段丘礫層から成る。概ね町内の地表付近にはアワオコシ、小林軽石、アカホヤなどのテフラが層をなして降下堆積している。



図版1 小田爪地区貝の化石層

b. 歴史的環境

町面積の80%を森林が占める綾町は、大淀川水系の綾南川・綾北川の合流点の扇状地に位置しており、集落は平坦地にある中心地区と、その周辺丘陵地及び山間高台地に点在している。

綾町の遺跡は、現在のところ平成7・8年度の詳細分布調査で約60箇所が確認されており、それらの遺跡のほとんどは、町中央部を流れている綾南川の南岸、綾北川の北岸、そしてその両河川に挟まれた中間丘陵地に分布している。

旧石器時代の遺跡は、現在のところ見つかっていない。しかしながら、平成元年に調査が行なわれた中迫地下式横穴墓群にて、横穴の竪坑埋土中に旧石器と見られる石器の剥片が発見されている。

縄文時代の遺跡は、平坦地には見られず、そのほとんどが丘陵地に分布している。縄文時代の表採資料としては、早期、後期のものが多く見つまっている。特に綾町で県内の縄文後期の代表的な遺跡として挙げられるものが、中央丘陵地に所在する尾立遺跡である。この遺跡は、大正7年京都大学の濱田耕作博士らによって調査され、その後も何度か宮崎考古学会や宮崎大学等により調査がなされている。主な遺物は、縄文後期の土器のほか磨製石斧、石錘、石鎌などが出土している。また早期の遺物では、押型文土器や貝殻文系の土器の破片が見つまっている。

弥生時代の遺跡は現在のところ見つかっていないが、詳細分布調査において高杯や壺などの破片が、割付地区周辺などにおいて見つまっている。

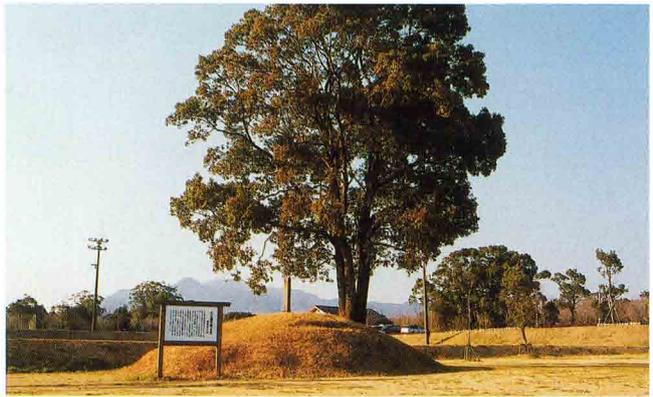
古墳時代の遺跡は、宮原台地や錦原台地にその存在が確認されている。特に宮原地区では県の文化財に指定されている綾町古墳が3基所在している。また、四反田古墳の付近では昭和43年の畑地改良事業により地下式横穴が1基発見され副葬品として土師器・須恵器計7点や人骨が出土した。この地下式横穴の築造の時期については、須恵器の形式などから古墳時代後期と考えられている。古墳の所在する台地の一段下の宮原台地には、古墳時代の土師器や須恵器が多量に表採されており、集落の存在を予想させている。一方、錦原台地には古墳1基が所在している。その付近の内屋敷遺跡では、天井部の崩落により地下式横穴が1基発見され、県の文化課によって昭和56年調査がなされている。一方、尾立遺跡の附近の中迫遺跡では、ゴボウトレンチャーの掘削により陥没が起こり、県文化課によって発掘調査がなされ3基の地下式横穴が見つかった。この調査で直刀、鉄斧、イモガイ製貝輪、平玉等が出土し、また遺存状況の悪い女性の人骨も出土している。この遺跡で2基の竪坑の切りあいがみられたことは県内でもあまり例がなく特徴的である。中迫地下式横穴墓群の営まれた時期については出土遺物の構成などから5世紀末から6世紀前半が考えられている。

古代の遺跡については調査がなされていないが文献等によると「亜椰駅」の存在が予想される。

中世については、南北朝期を経て綾氏、伊東氏、島津氏の支配下にあった「綾城」の存在がある。綾城は伊東氏時代には、48城の一つとなり山東の拠点として重要な役割を果た



図版2 尾立遺跡遠景



図版3 綾古墳（首塚）



図版4 亜椰駅跡



図版5 垂水城跡遠景

した。このほかにも、町内には山城として垂水城跡、そのほかの城跡として肥田木城、内屋敷城などが残っている。特に垂水城、内屋敷城については、現在でも堀や土塁が良好に残っている。

参 考 文 献

- 綾 町 1979 『綾町郷土誌』
 綾町教育委員会 1995 『中迫地下式横穴墓群』
 石川恒太郎 1969 「東諸県郡綾町地下式古墳調査報告」『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』
 第13集 宮崎県教育委員会
 面高 哲郎 1996 「内屋敷地下式横穴群」『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県
 日高 孝治 1993 「四反田地下式横穴」『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県

2. 調査の目的

a. 綾町の今年度の開発について

綾町は、宮崎市街地より離れていることもあり大規模な開発に縁遠いところである。しかしながら、開発が全くなかったわけではなく、確実に町内の遺跡は破壊されてきたといえる。

今年度の開発対応の調査は、公共事業3であった。それらについては担当課との協議の上、教育委員会が主となり、トレンチ法による試掘調査を行った。しかしながら、その他の民間・個人開発等に対しては、十分に対応がなされたとはいえない。今後も、発掘調査が事業者課せられた義務であることを周知徹底させる努力をしていきたい。

表2 平成14年度試掘調査一覧表

	地区名	調査期間	原因	開発主体	成果
1	東中坪地区	H14. 6. 12	宅地造成工事	町	土器の破片
2	杵道地区	H15. 3. 12、17	道路新設工事	町	土器、ピット等
3	南麓地区	H15. 3. 26～28	屋内体育施設等建設	町	土器

Ⅲ 試 掘 調 査

1 永田地区宅地造成工事に伴う試掘調査

(東中坪地区)

2 小田爪・錦原線道路新設工事に伴う試掘調査

(杣道地区)

3 多目的屋内練習場（仮称）建設工事に伴う試掘調査

(南麓地区)

1 永田地区宅地造成工事に伴う試掘調査（東中坪地区）

永田地区は、綾町市街地のほぼ中心部の東中坪地区に位置する場所である。標高は約25mほどで、綾南・綾北川の合流点の扇状地に位置している。

町では、この地区に宅地分譲地造成を計画した。そこで担当の総務税政課と協議した結果、教育委員会が試掘調査を行うこととなった。試掘調査は、1日で行い合計13本のトレンチを入れた。どのトレンチにおいても深さが0.5～1mほどになった。特に第5トレンチにおいては下部より礫層が見られた。第6・10トレンチにおいては、表土の直下より土師質の土器の底部などが数点見つかったが、その他明確な遺構はどのトレンチにおいても検出されなかった。他のトレンチで土器の出土がなかったことや出土地層から判断して、出土した土器は河川の氾濫等によりこの地に運ばれたものであると考えられる。トレンチについては、調査終了後に埋め戻しを行った。

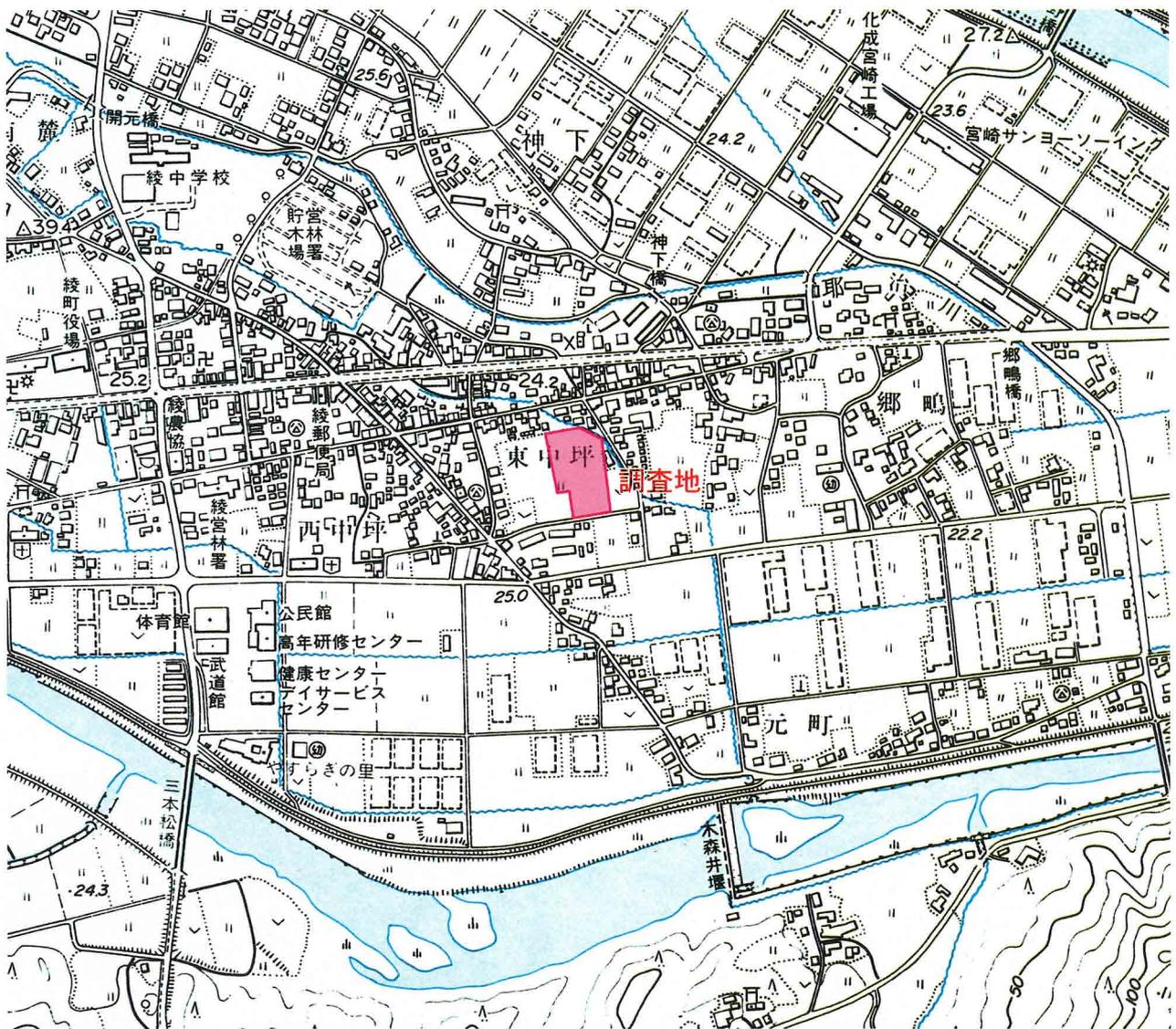


図2 東中坪地区調査地位置図 (1 / 10,000)



図版 6 東中坪地区調査地遠景



図版 7 東中坪地区調査対象地



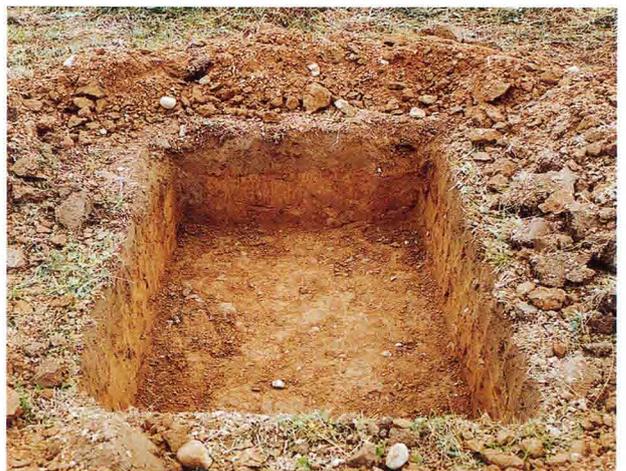
図版 8 第 5 トレンチ下部礫層



図版 9 第10トレンチ全景



図版10 第10トレンチ南壁



図版 9 第12トレンチ全景

2 小田爪・錦原線道路新設工事に伴う試掘調査（杓道地区）

杓道地区は、綾の役場からみてほぼ北西に位置する集落である。町は、その杓道地区の公民館南側に位置する台地上に町単独事業として道路新設工事の計画を立てた。この地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である別府遺跡の北側に位置するという事もあり、担当の建設課と協議した結果、教育委員会が埋蔵文化財確認のための試掘調査を行うこととなった。試掘調査は作業員による手掘りとなり、調査対象地内に2日間合計で31本のトレンチをいれた。調査地北半分の一部のトレンチでは下部に火山豆石を含んだ良好なアカホヤ層が確認されたが、南半分ではアカホヤの検出がまったくなく、下層からは小林軽石の層が検出された。

遺構については、何ヵ所かのトレンチから用途不明のピットや溝が検出された。また、遺物の出土についてはトレンチ31本中約半分の15本のトレンチから縄文時代～中世のものと考えられる土器が出土した。試掘調査終了後は、写真と土層断面等のメモを取った上で埋め戻しを行った。

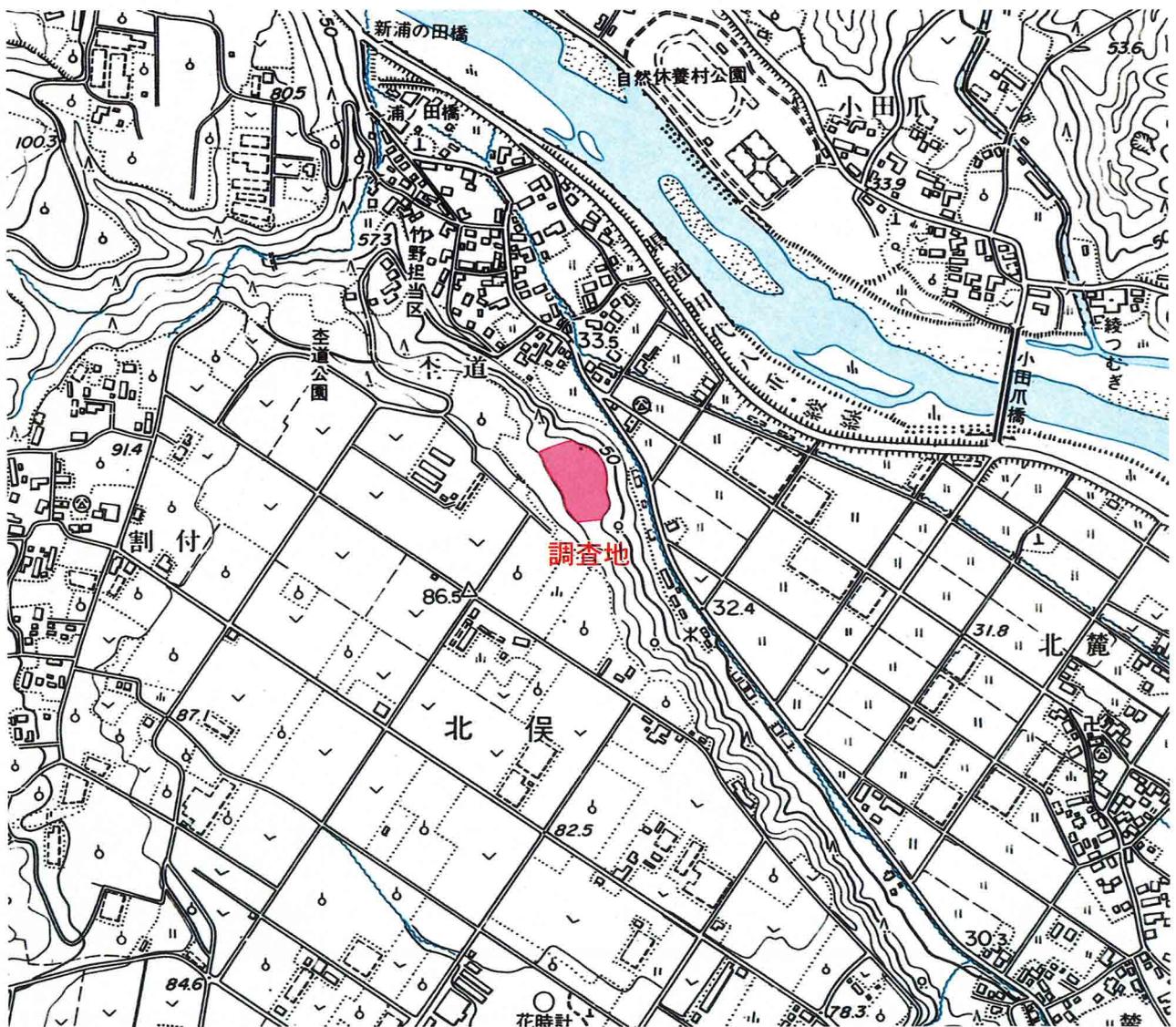
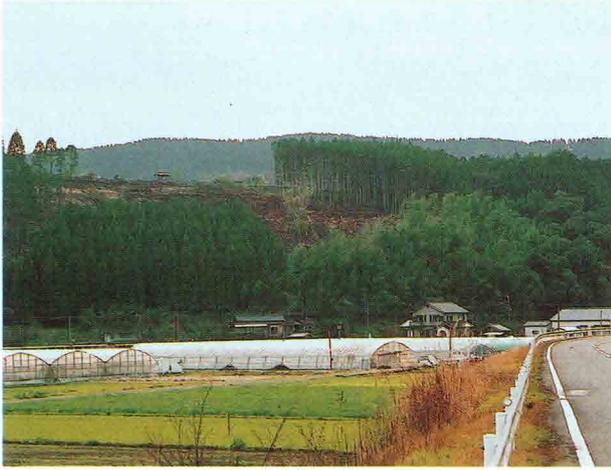


図3 杓道地区調査地位置図 (1 / 10,000)



図版12 柰道地区調査地遠景



図版13 柰道地区調査対象地



図版14 第6トレンチ内検出ピット



図版15 第21トレンチ全景



図版16 第21トレンチ遺物出土状況



図版17 柰道地区調査地出土遺物

3 多目的屋内練習場（仮称）建設工事に伴う試掘調査（南麓地区）

町では、中心市街地の活性化事業として、貯木場跡地の約 32,000㎡の地に屋内練習場、図書館などの建設を計画した。これに伴い、担当課と協議した結果、試掘調査を行う事となった。調査地が広大な面積で、またアスファルト等も一部残っているという事で、掘削に関しては重機を使用することになった。調査は3日間の日程で行い、合計32本のトレンチをいれた。どのトレンチも0.5～1mぐらいのところまで貯木場の基礎部分として埋め立てられており、下部の良好な地層がみられたのは、一部のトレンチだけであった。また、一部川礫の層がみられるトレンチもあった。

すべてのトレンチにおいても遺構は検出されなかったが、第24トレンチにてほぼ完形の土師質の皿が見つかったが、遺構に伴うものではなく、河川の氾濫などでこの地に運ばれてきたものと考えられる。調査後は、トレンチすべてを埋め戻した。

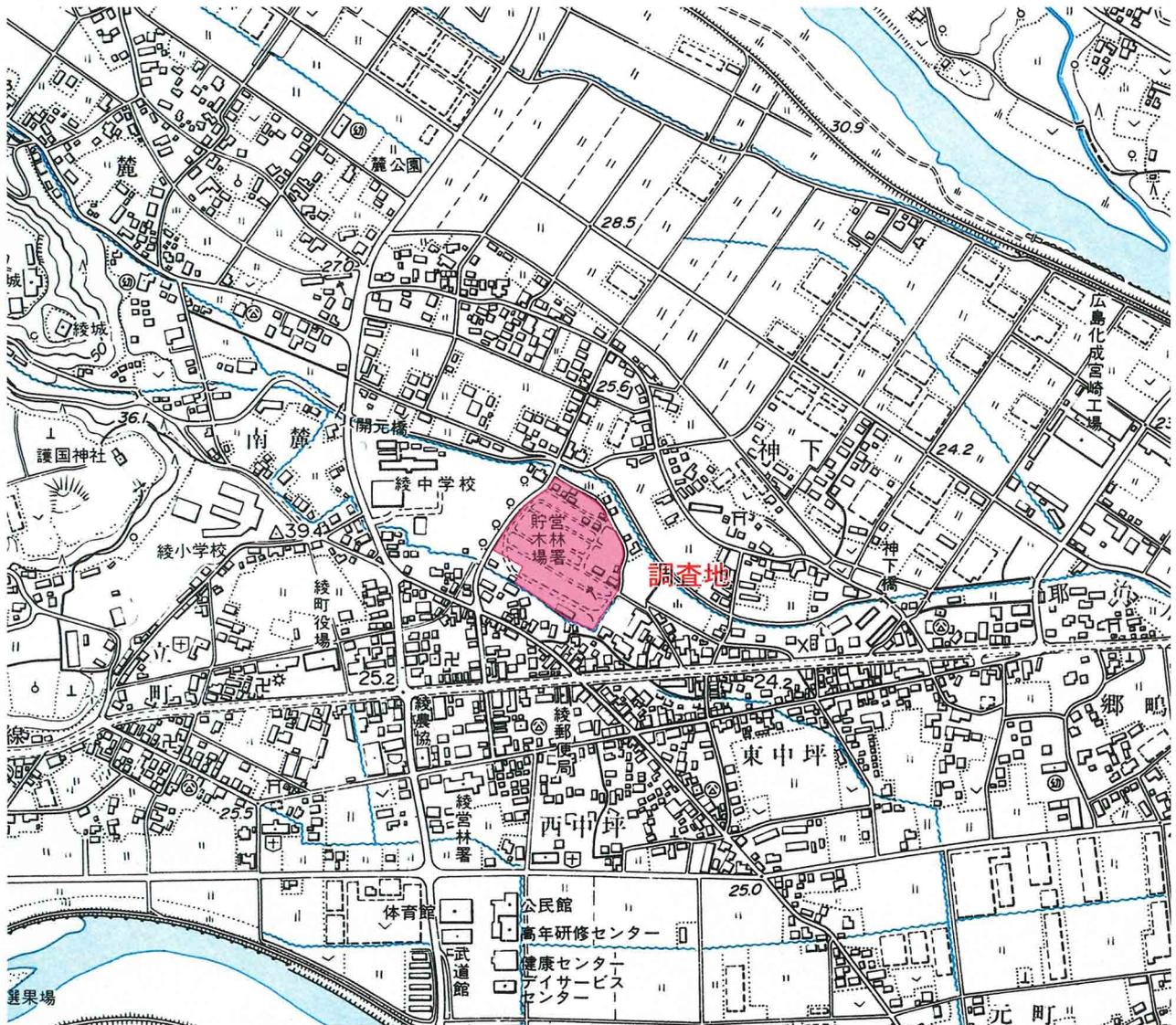
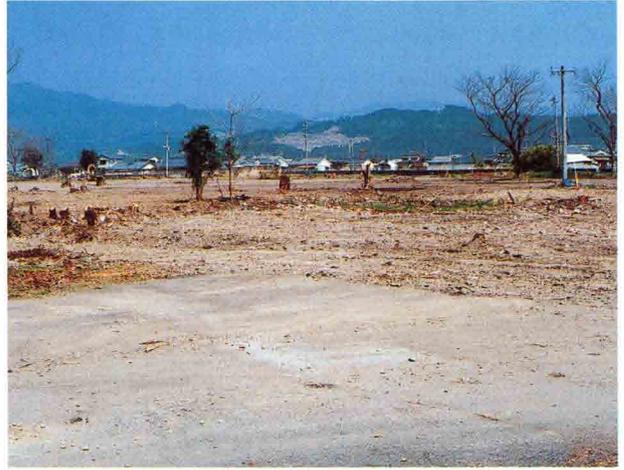


図4 南麓地区調査地位置図 (1/10,000)



図版18 南麓地区調査対象地（その1）



図版19 南麓地区調査対象地（その2）



図版20 調査作業風景



図版21 第5トレンチ全景



図版22 第17トレンチ全景



図版23 第17トレンチ西壁土層断面

表3 報告書登録抄

フリガナ	アヤチョウナイイセキ
書名	綾町内遺跡Ⅲ
シリーズ名	綾町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第5集
編集者名	井上隆広
発行機関	宮崎県綾町教育委員会
所在地	宮崎県東諸県郡綾町大字南俣546-1
発行年月日	2003.3

綾町埋蔵文化財調査報告書第5集 綾町内遺跡Ⅲ 2003年3月	
編集・発行	綾町教育委員会 〒880-1303 宮崎県東諸県郡綾町大字南俣546-1 TEL. 0985-77-1183
印刷	有限会社垣原印刷 〒880-1101 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄3984 TEL. 0985-75-2015

